兵肢協会報

発　行　所
〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1－1
兵庫県福祉センター内
兵庫県肢体不自由児者協会
ＴＥＬ 078-241-9907
ＦＡＸ 078-241-9908
E-mail:hyoshikyo@nifty.com
URL:http://hyoshikyo.d.dooo.jp

コロナ禍考

一般財団法人
兵庫県肢体不自由児者協会　理事長
鄭　正　秀

今年の2月頃から蔓延し始めたコロナウイルス感染症は全世界に多大なる影響を及ぼしております。我が国では4月から5月にかけてピークを迎えた感染の第一波は6月中旬には過ぎ去ったものの、8月現在では再び感染者数が増加し、第二波の襲来と思われる状況です。いつ、このコロナウイルス感染症が終息するか全く不透明で、誰もが不安で不便な毎日の連続と思われます。ようやく英国を始め数カ国でワクチンの治験が実施されつつありますが、一日も早く有効なワクチンが完成することを望んで止みません。

このコロナウイルス感染の社会への影響、とくに経済界への影響は深刻で、例えコロナ感染が終息したとしても、大きく傷ついた経済が元通りの姿に立ち直るにはかなりの年月が必要であると考えられます。しかもこの憎むべきコロナウイルスが完全に消えさることはもはや期待できません。我々人類は今後いかにしてこのウイルスと共存していくかを真剣に考える必要があります。

人類は長い間、生存の為に四つの課題と闘ってきました。飢餓・戦争・自然災害・病原体です。飢餓との闘いが経済成長を生み、戦争との闘いが自由民主主義の政治を生み、自然との闘いが科学技術を生み、病原体との闘いが医学を育んできました。全てが人間の生を磐石にする為であり、それが文明を生み出しました。

病原体に限って見ますと、人類は結核・ペスト・コレラ・天然痘・マラリア・インフルエンザ等との闘いに明け暮れてきました。例えば中世ヨーロッパでのペストの大流行では当時のヨーロッパの人口の約三分の一が失われたと言われています。また約二百年前のコレラの世界的大流行では日本でも3万人とも、一説では26万人もの人が亡くなったと言われています。さらに約百年前の「スペイン風邪」では全世界で約五千万人もの死者を出し、日本でも約45万人の死者を出しました。現在に生きる我々はこれらの厳しい闘いに勝ち抜いてきた先人の輝かしい末裔であります。このコロナに対しても個人個人の力を結集して勝ち抜いていく必要があります。

コロナ感染終息後の世界は今まで経験しなかった新しい世界へと変わっていく可能性があります。当たり前であった「日常」を揺さぶり、改めて「家族」「仕事」「対人関係」「生と死」に向き合うことを私たちに迫ってきています。テレワーク、オンライン教育、無人接客、無人配送、無人生産ラインといったAIを用いた人と人との繋がりがこれからの社会の常識となっていく可能性があります。すなわち人と人が直接対面しなくても対人関係が完結する時代になるのかも判りません。

またこの数十年で急速に進んだグローバリズムを改めて見直す必要に迫られるかも判りません。コロナウイルスの蔓延により「ヒト」と「モノ」の移動がストップして世界経済は大打撃を被っています。たしかにグローバリズムは平時においては関係諸国に多大な利潤をもたらす効率的なシステムではあります。しかしパンデミックのような破局的な変動においては全てが吹き飛んでしまいます。これからも経済界が厳しい状況におかれることは間違いないと思います。私達はこの数十年、いかに薄っぺらい経済を作り、うわべだけの豊かさを享受してきたかを気付いた訳です。これから社会の本当の豊かさ、そして人間としての本当の豊かさが何かをいま一度考えなおす時期にきてると思われます。

これからの世界は経済のみならず、政治の多様化、複雑化による戦争のリスク、地球環境の悪化による自然災害のリスクと飢餓のリスク、そしてエイズ、SARS、今回のコロナに続いて新たな病原体の発生リスク等、二十一世紀は我々人類にとって極めて厳しい世紀になることは間違いないと思われます。

肢体不自由児者協会は

肢体不自由児者の愛護思想の普及、療育等に関し必要な事業を行い、肢体不自由児者の福祉の増進を図ることを目的とし、そのために、

一　肢体不自由児者の愛護思想の普及
二　肢体不自由児者の療育相談及び更生相談
三　肢体不自由児者の教育の援護
四　肢体不自由児者の激励慰安
五　肢体不自由児者に関する刊行物等の発行及び斡旋
六　肢体不自由児者の福祉に関する調査及び研究
七　日本肢体不自由児協会及び関係諸団体との連絡

などを行っています。